

今年度の研究授業より得たもの

H15.11.18

研究主題

自分の思いを豊かに表現できる子の育成

相手に伝わる話し方を育てる指導の在り方

【研究仮説】

- ・児童が進んで話したくなるような場を多く設定し、話し方を身につけさせることで話そうとする意欲を高めることができる。
- ・心に残る体験をさせることで自分の考えや思いを膨らませ、根拠を持った話をするすることができる。
- ・お互いを尊重しあう集団づくりをすることで、相手の立場に立った話をする力を育てることができる。

【研究内容】

学年の段階に応じた話し方を身につけさせる

根拠を明らかにして話すことができるような場の設定や課題を工夫する

思いやりの心を持って話し合いができる集団づくりをする

1、授業研で明らかになったこと

< 野田教諭の授業より学んだもの >

授業の視点

- ・宝物が何かははっきり理由が言える。
- ・教えたことがはっきり言える。
- ・グループでの話し合いに積極的に参加できる。
- ・まとめの発表が進んでできる。

成果

- ・ラメニア小学校を出口にしたことで児童の目的意識がはっきりして、どういう風に話すと分かりやすいかを考えることができよかった。
- ・自分の宝を決めたことで、調べようという意欲につながった。
- ・ヒントカードなどの工夫が考えられない子への考える糸口になった。
- ・低学年部会で授業を練り上げていった歩みの中で大きな収穫があった。

課題

- ・「宝物」に対する、授業者の思い（地域の特徴、これからも大事にしていきたいもの）と児童の思い（ひみつ基地、バツタなど）にずれがあったため、宝物としての実感が弱かったのではないだろうか。三枝にしかないものであることを明確に示すことで、児童の思いが深まったと思われる。
- ・伝えたいという気持ちを膨らませるための手立てが必要。

< 本田教諭の授業より学んだもの >

授業の視点

- ・登場人物の気持ちに共感させられる資料の選定であったか。
- ・自分たちの感想から第一発問を設定したことは、児童の表現しようという意欲を喚起させることになっていたか。
- ・価値の把握ができたか。その上に立った表現になっていたか。

切り返しの発問（深めの発問）をすることで、より深い理解ができたか。

- ・自分を振り返ることを大切にしたが、その点での表現はどうであったか。
- ・抽出児について

成果

- ・授業の中で表現に関する指導が意図的に行われている。
- ・道徳的価値の自覚を深める時間の中で、自分とのかかわりの中で意見が言える子が育っていたことがすばらしい。
- ・自分の弱さを語れる子がいた。
- ・「蛍の説話」は、三枝にしかなく大変適した説話であった。

課題

- ・教科や領域の本質をより大切にしたい表現を求める。（課題に向かって追及していく授業）
- ・対教師の表現でなく、児童同士で練りあえる表現にしたい。
- ・話すだけが表現ではない。そのほかの表現にもこだわりたい。